

短時間課金型「整備技術情報閲覧システム」について

EU では 2002 年に「ブロック免除規則 (BER)」が改定され、自動車メーカーは独立系整備工場に対しても有償で技術情報を提供する義務が明文化されました(それまではユーザー向けマニュアルしかなかった)。

これにより各社は整備情報提供システムを構築し、当初はDVDによる提供でしたが、2008 年頃からオンラインによる「時間貸し」に転嫁しました。主要メーカー別の情報提供システムは以下の通りです。

メーカー	システム名	開始時期	初期提供形態	現在の利用実態
Volkswagen	ErWin	2003～2004 年	DVD/紙 → 時間貸しオンラインへ	時間単位の課金 (1 時間～30 日)、PDF 出力可
Audi	ErWin	2003～2004 年	同上	VW と共通基盤。日本の整備工場も多数利用
BMW	TIS → AIR	2005～2006 年	TIS CD → Web AIR	AIR で 1 日利用などの課金方式、ISTA との連携あり
Mercedes-Benz	StarTekInfo (US)	2004～2005 年	北米先行オンライン提供	全モデル対応、現在も利用されている
Peugeot/Citroën (PSA)	ServiceBox	2004～2005 年	DVD 提供 → Web	サブスクリプション対応。日本国内での使用例あり
Fiat (Stellantis)	TechInfo	2006 年頃	ePER(部品) → 技術提供	時間貸し方式。一部は部品カタログと統合提供

2007 年に EU の法制度 (EU 規則 715/2007) が強化され、修理および整備に必要な情報の公開が義務化されたためです。「自動車メーカーは、独立系整備業者 (インディペンデント・ガレージ) にも整備マニュアル、OBD コード、電子システムの仕様情報などを提供しなければならない」と定められました。

<システム開始時期>

- ・2007 年:EU 規則 715/2007 が制定。RMI (Repair and Maintenance Information) の公開義務化。
- ・2008～2010 年頃:Volkswagen や BMW などが外部整備業者向けオンラインポータルを開設。
- ・2010 年前後から:1 時間～1 日など短時間利用を前提とした課金方式が一般化。

・料金体系(2024-2025 年)の目安:各社により差があるが、1時間 1500 円、1日 5500 円程度

<特徴と利点>

- ・VIN コードを入力することで、特定車両に関連した技術情報だけを抽出できる。
- ・PDF で整備マニュアルや配線図をダウンロード可能。
- ・時間単位の閲覧契約により、必要な情報だけを安価に取得できる。

<日本国内での利用実態>

- ・輸入車整備を行う独立整備工場では、ErWin や ServiceBox を 1 日単位で利用し、整備情報をダウンロードして活用するケースが増えている。
- ・VPN 接続や英語・独語の読解力、クレジットカード決済環境などが必要なため、活用には一定の IT リテラシーが求められる。

【注】上記はあくまでも JISPA が調査したものであり「仕組みと相場が判れば良い」との判断で掲載しています。

価格、条件については時々、変更されますので、最新情報を確認下さい。

日本自動車輸入組合(JAIA)にお問い合わせください。以下のサイトに情報の入口がある。

<https://www.jaia-jp.org/ja/member/obd-list/>

<解説> 欧州において長く自動車の整備技術情報や補修部品情報は「独占禁止法上の適用除外」とされており、ディーラーへの「独占的な開示」が許されていた。しかし、これは自動車ユーザーの苦情及び圧力により独立系の整備工場にも開示されることになった。

2002 年にまず適用除外が外され、続いて EU 規則 715/2007 が制定された。自動車メーカーは独立系整備工場に整備情報を提供する義務が定められた。

2007 年以降、欧州の自動車メーカーは独立系整備工場向けに整備技術情報をホームページ等で開示。上記の情報公開は欧州の自動車メーカーは実施済みであり、日本でも利用できる。

以上